

2017/09/17 献堂 13 周年に寄せて

～信仰から始まった～

## 1. 信仰によって始まる

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル 11:1)

今年は、この教会堂ができて、ちょうど 13 年になります。会堂建築は、私たちが「新しい礼拝堂がほしい」という信仰を持ったところから始まりました。夢・ビジョン・信仰…さまざまな表現がありますが、すべては何もないところに願いを持つことから始まります。

人はなぜ夢やビジョンを抱くのでしょうか。人間は皆、自由に考えることができる力を持っており、夢やビジョンを持つと、私たちは、頭の中で、それを言葉によって思いめぐらします。言葉によって、永遠に生きる自分を想像することもでき、自分を過去に戻すこともでき、世界を支配する想像すらすることができます。夢やビジョンは、私たちの中に言葉として存在し、言葉は何ものにも制約されない力を持っているのです。

聖書は、イエス・キリストのことを、「この方はことばであった」と教えています。神とは、完全な自由であり、時間にも空間にも、何ものにも制約されないお方です。私たち人間は、神に似せて造られたので、同じように自由な思いを持つ存在です。人は、言葉を持って生まれましたが、実は、その言葉には、神ご自身の性質が宿っているということなのです。

歴史を通して、神がいることを証明することはできませんが、私たちの中に言葉があるということは、厳然たる事実です。ことばは神であり、私たちが言葉を持っているということは、私たちの中に神の思いが宿っているということです。ですから、私たちは、言葉を通して、なにものにも制約されていない自分の姿を自由に思い描くわけです。

ところが、実際のところ、現実の私たちには、さまざまな制約があります。それは、悪魔が神と人との関係を壊し、人が神との結びつきを失ってしまったことによるものだと聖書は教えています。神との結びつきを失うことを、死と呼びます。人は神に似せて造られた自由な存在でしたが、死が入り込んだことによって、制約を受ける体になり、神の愛がまったく見えない制約された世界で生きることになってしまいました。ですから、私たちは、言葉によって過去や未来に自由に思いを馳せることはできますが、現実にはそのようにはなりません。体は永遠に生きることはなく、私たちには自由がありません。このギャップの中で、人は苦しんでいるのです。

たとえば、私たちは神のいのちを持っていますから、本来は人を憎む必要がなく、自由に人を愛せます。ところが、現実には、人を愛せずに、憎んだりしてしまいます。そのために人を愛せないという限界にぶつかり、苦しむのです。

人はそれぞれ様々な限界にぶつかって苦しみますが、本来私たちは、神に似せて造られ、

限界など持っていなかったもので、本来の自分の姿に戻ろうと、必死になって限界を越えようとしします。これがビジョンであり、夢なのです。人が夢を持ち、限界を越えようとするのは、私たちの本来の姿である、神に造られた自由な自分に戻ろうとするためなのです。

限界を越えようとする私たちの前に、最も大きく立ちはだかるものが死です。人は、この壁を乗り越えようとして、少しでも長生きしようとしてきました。しかし、残念ながら、人である以上、最終的にこの限界を越えることができません。死という壁に対しては、誰しも絶望しか持つことができません。その時、神様は、「私があなたに差し伸べている手を握りなさい。私が死の壁を壊して、限界からあなたを救い出してあげよう。」と言って救ってくださるのです。誰でも、ただ神の手にしがみついただけで、救われます。

私たちの魂は神を慕い求めていると聖書にあります。人はビジョンを通して、限界を越え、神に近づこうとしているのです。クリスチャンはそのことを知っているのです。まだ見ぬことを知ろう、限界を越えようとするのを、信仰と呼びます。信仰とは、まだ見ぬ自分の限界に対して、神なら助けてくれると信じて進むことです。信仰を知らない人は、それを夢やビジョンなどと呼びますが、心が求めていることは同じです。

会堂建築の初めにあったものも同じです。神が私たちに与えてくださった自由によって得られたビジョンを心に描いて、神に祈り、神に求めるところからスタートしたのです。

## 2. 告白して祈る

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ローマ 10:10)

いくら信仰を持っていても、頭の中だけで夢を描いているだけでは、現実のものにはなりません。信仰は、告白しなければ力を持たないのです。

世界には、キリスト教に対して良いイメージを抱いている人がたくさんいます。しかし、イエスを信じると告白しなければ、クリスチャンであるという実感は湧いてこないものです。好きな人がいても、心の中で思い描くだけで告白しなければ、その愛は現実にはならないことを私たちは知っています。

信仰は、告白しなければ現実のものになりません。告白とは祈りです。夢を現実にするには、祈りの中で、自分の願いを神に告白することです。言葉によって、私たちは自由にされます。

祈りは、神に似せて造られた私たちの本質の中にある人を愛したいという思いと、死によって入り込んだ人を憎んだり争ったりする思いとの、ギャップを埋める役割を持っています。本来私たちは神の思いを持って生きるようになっていきましたが、死が入り込んだことによって、あきらめて限界を受け入れるようになってしまうました。これを聖書は「肉の思い」と呼びます。祈りは、肉の思いを排除して本来の自由な思いに戻るために必要なものです。

会堂建築には、多くの困難がありました。状況が、完全に閉ざされたように見えるときもありました。それでも、私たちは、「会堂が建つように」と、神様に告白して祈り続けました。神様が言葉を通して私たちに与えてくださった自由な思いを、祈りの中で告白することで、人は神の思いに自分の思いを近づけていくことができるのです。

### 3. できることをする

「この女は、自分にできることをしたのです。」(マルコ 14:8)

イエス様は、この女性が自分の足に香油を塗ってくれたことに感動なさいました。「この人は自分にできることをした」。これが、イエスは感動した理由です。逆に言うと、自分にできることをしない人が多いのです。

神との人との関係の原則の一つに、「人にできることは人にさせる」というものがあります。神様は、人にできないことを助ける方です。人にできることを助けるのは、人が勝手に作り出した神です。ラザロという青年を復活させたときも、イエス様はこの原則を徹底しておられます。墓石をどけるのは人にさせ、死人を生き返らせるという神にしかできないことはイエス様がなさいました。そして、その後、ラザロの包帯を外すのは人にさせておられます。

夢を持ち、告白して祈ったら、次に、自分は何ができるかを考えて、行動する必要があります。会堂建築の際も、私たちはまず、できることとして捧げ物をし、土地探しを始めました。そして、いい土地が見つかった時には、そのお金で土地を買うことができました。聖書に次のような教えがあります。

### 4. 脱出の道を探す

「あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」(I コリント 10:13)

夢を持って限界を越えようとする、必ず問題にぶつかります。その時、聖書は、試練とともに脱出の道が用意されていると教えています。試練に耐えるだけでなく、脱出の道を探しましょう。この時、肝に銘じておかなければならないことは、脱出の道を探すのは自分達だということです。脱出の道は必ず用意されているから、あきらめないうで探し続けなさいと、神様は励まし続けてくださいます。

会堂建築の途中、いよいよ会堂建築が始まると思った矢先、契約した金額では到底できな

いという理由で、工事が開始されませんでした。結局、契約不履行で、白紙に戻り、私たちはもう一度建築を見直さなければならないという試練に会いました。

その後、色々なゼネコンを探しましたが、どこも私たちの予算で建築を引き受けてくれるところはありませんでした。そこで、二つの選択に迫られました。一つは規模を縮小するか、もう一つはこのままの規模を進めていくかです。しかし、私たちは第三の選択をすることにしました。それは、自分たちの予算に見合った建物を建てるという考えに立つのではなく、どんな会堂を建てたいのかを神に求め、神に期待するという選択です。その選択に立って、今一度建築を見直しました。その結果、当初の計画よりもかなり品質の良い立派な建物の内容となり、コストは大幅にアップすることになりました。しかし、私たちは脱出の道があるという御言葉を信じ、それを探しました。すると、奇蹟が起き、道が見つかりました。新しいプランを立てている間に献金が増え、銀行からも低金利の長期融資の申し出をいただきました。さらに、教会建築予定地の隣地一帯を、大手ゼネコンが開発することになり、そのゼネコンが私たちの教会の建設も請け負うことでコストダウンが図れるからと、私たちの予算で会堂建築を引き受けてくれるとの申し出をしてきてくださったのです。

神様は、確かに「脱出の道」を用意してくださっていました。「脱出の道がある」という御言葉は本当だと、私たちは身をもって体験しました。この会堂はまさに神様からの励ましによって建ちました。

それぞれ、様々なことで問題にぶつかるかもしれませんが、神様はひとりひとりに、信じて祈り続けてほしいと願っておられます。神様は確かに祈りに答えてくださいます。